

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2019年2月10日(日)

主 題：「何かが起こるのです」

—愛の「行い」—

テキスト：ヤコブの手紙 2章25、26節

### はじめに

- ・人間とは実に不思議な存在です。昨今は科学、医学、化学、テクノロジーが発展し、AI(人工知能)が、著しく進んできました。それとともに、人体がいかに精密に造られた存在であるかが分かってきました。これまで解明できなかったことが、急速に明らかになりつつあります。
- ・それは、ある意味でとても良いことでしょう。なぜなら、それを通して人間を造られた神がどんなに偉大なお方であるか知ることができるからです。しかし一方、神を知らない(存在を認めてない)人にとっては、高慢になっていくことでしょう。
- ・ここで、私たちが覚えなければならない大切なことがあります。  
⇒ 人間は、「目に見える部分」(肉体)と、「目に見えない部分」(たましい)がある  
たましいとは、簡単にいうならば、良心とも言えましょう。それは小さな子どもでも自覚できるものです。
- ・もし、その二つが分離するならば、それは肉体の死をもたらすことになります。肉体とたましい、その二つは私の内に存在しています。それと同じように、信仰と行いを切り離すならば、それは死んだ信仰となります。著者ヤコブが語りたい点は、そこにあるのです。つまり、この二つにバランスがとれて働く時、今日のテーマである「何かが起こるのです」、とすることができます。
- ・私は次の2点から、主のみ声を聞きたいと願っております。

### 大切なポイント

#### 1. 遊女ラハブに学ぶ

2:25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行ないによって義と認められたではありませんか。

#### 1) 遊女ラハブの「行い」

- ・ヤコブは前回、生きた信仰の一例として父祖アブラハムを挙げました。今日は第二例として、遊女ラハブを挙げています。まったく対照的とも言える二つの例です。遊女は、いつの時代でも、どこの国でも、社会的に尊敬を受ける職業ではありません。なぜなら、道徳的、倫理的に問題があるからです。ですから遊女は、最も低い立場におかれ軽蔑されていました。
- ・ユダヤ社会において、とくに男女間の関係には厳しい律法がありました。そのユダヤ社会で遊女として働く人は、それなりに深い事情がありました。社会的にまったく無力な人でした。ヤコブはその遊女を第二例として挙げたのでした。では、なぜヤコブは遊女ラハブをここで挙げたのでしょうか。  
(「遊女ラハブ」とあるのは、これは救われる前の彼女の仕事でした。)
- ・聖書は、このラハブについて次のように記録しています。ヨシュア記  
**2:1 ヌンの子ヨシュアは、シティムからひそかにふたりの者を斥候として遣わして、言った。「行って、あの地とエリコを偵察しなさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家にはいり、そこに泊まった。**
- ・彼女は、イスラエル人の二人のスパイを単なるスパイとしてではなく、自分と家族に対する神からの使者として受け入れたのでした。そして、彼女はその二人のスパイを助きました。  
**2:3 エリコの王はラハブのところに人をやって言った。「あなたのところに来て、あなたの家にはいった者たちを連れ出しなさい。その者たちは、この地のすべてを探るために来たのだから。」ヨシュア記**
- 2:4 ところが、この女（ラハブ）はそのふたりの人をかくまって、こう言った。「その人たちは私のところに来ました。しかし、私はその人たちがどこから来たのか知りませんでした。**
- 2:5 その人たちは、暗くなって、門が閉じられるころ、出て行きました。その人たちがどこへ行ったのか存じません。急いで彼らのあとを追ってごらんください。追いつけるでしょう。」**
- ・このようにして、遊女ラハブは二人のスパイを助きました。ヨシュア記  
**2:15 そこで、ラハブは綱で彼らを窓からつり降ろした。彼女の家は城壁の中に建て込まれていて、彼女はその城壁の中に住んでいたからである。**
- ・ラハブの「行い」は、エリコの町の同胞を裏切る行為でした。では、なぜ彼女は裏切り行為までして、二人を助けたのでしょうか。それは命がけの「行い」でした。つまり、命をかけてまで二人を助けるという「行い」でした。それは、ラハブに信仰があったからでした。彼女はこの信仰によって「義」と認められ、と聖書は記録しています。「義」、つまり神の前に「善し」とされたのです。

## 2) なぜ、遊女ラハブは用いられたか

- ここで、私たちは疑問を持ちます。神はなぜ、遊女のような低い身分の人を用いられたのでしょうか。スパイを助ける方法は、神であれば、当然他の方法もお持ちであったはずですが、あえて遊女ラハブが用いられました。そこには次の理由が挙げられます。

### ① 神の愛

- 神は、社会のもっとも低い立場にあった女性を選ばれました。スパイを救出するのに、高位の人を用いられたのではありません。また力の強い勇者を用いられたのではありません。遊女ラハブでした。神の愛は、この世でもっとも低い立場の人にも届くことを教えてくれています。
- これは、神の計りしれない「愛」です。私たちは励まされますね。正直に、素直に、自分を見るならば、神がなぜこんな者に目を留めてくださったか？ ⇒神の「愛」です。パウロは次のように言いました。  
**私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。1コリント15:9**
- もう一点、大切なことがあります。なぜ、遊女ラハブが用いられたのでしょうか。

### ② ダビデの家系

- イエス・キリストの誕生系図は、マタイの福音書1章に書かれています。新約聖書の第一ページを開いてください。そこには何と書かれていますでしょうか。  
**1:1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。**
  - NHK テレビで「個人の歴史」をひも解く番組がありますが、視聴率が高い番組のひとつです。主人公の2世代、3世代、あるいは4世代までさかのぼり、その背景を見るものです。しかし、10代までさかのぼった主人公は、いないでしょう。
  - ここにイエス・キリストの系図が書かれています。聖書こそ、「歴史秘話ヒストリア」です。  
**1:17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。**
- 合わせて42代まで、聖書はイエス・キリストの系図を記録しています。その中に遊女ラハブが現れます。

1:5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、

1:6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、

- そして、飛んで次の聖句をお読みください。

1:16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。

皆さん。イエス・キリストの系図に遊女ラハブの名前があります。

なんとこの驚きではありませんか。キリストの系図（ヒストリア）に遊女ラハブが入っているのです。これはキリスト（メシア）の身分を現わしています。イエス・キリストは、このような低い人を通してお生まれくださいました。ここに神の愛が秘められています。

- 皆さん。ラハブは、人類救済史に残る栄誉あるキリストの家系に加わる身となりました。それは、なぜでしょうか？ ⇒ 彼女は生ける神を畏れ、信仰をもってスパイを助けるという「行い」をしたからでした。いのちがけの人助けは、彼女が神を畏れたところから出ていました。
- 神が、遊女ラハブの「行い」を高く評価されたように。ヤコブも遊女ラハブを高く評価しました。ここで、私たちは信仰と行いについて、さらに考えてみましょう。

## 2. 信仰と行いの関係

- ヤコブは次のように述べました。

2:25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行ないによって義と認められたではありませんか。

- ある人は、「ラハブは行いによって義と認められた」とありますから、信仰だけでなく、行いもないと救われないと主張しています。しかし、そういう意味ではありません。
- 行いは救いに至る信仰を持った結果、出てくるものです。救いを受ける条件ではありません。もし、行いが救われる条件であるならば、どこまで行っても、私たちは救いの確信を持つことはできないでしょう。
- 聖書は、福音を信じることだけが救いの条件であると教えています。

1 ヨハネの手紙5章

5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

- ・イエス・キリストを信じた人は、たましいの救いを得ることができます。そして、その人はさまざまな形で自分の人生を生き始めます。聖書は、信仰生活は、自分の人生の家を建てる「マイホーム建設」であると教えています。

第一コリント人への手紙 3 章

**3:11** というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

**3:12** もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、

**3:13** 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。

- ・これらの聖句は、何を教えているのでしょうか。

それはイエス・キリストという土台の上に、どんな家を建てるかということです。すなわち、神が信仰を通して与えてくださる金、銀、宝石などで建てる人と、木、草、わらなどで建てる人です。

- ・前者は永遠に朽ちない宝のことです。後者は、消えていくむなしいものです。火事にあえば、一瞬のうちに無くなります。いかがでしょうか。私たちの人生は、一度しかない非常に貴重な人生です。どんな家を建てようとしているでしょうか。
- ・各人のその働きは、終わりの日に明らかになります。言葉だけではありません。「行い」があるのです。金、銀、宝石は永遠に変わらないものですが、それは信仰者に与えられる贈物のことです。つまり「行い」というものは、それほど価値の高いものであります。
- ・そのように考えると、遊女ラハブには社会的身分はありませんでした。しかし彼女の行い（愛の奉仕）は、3千年以上も残っている宝石のような宝ではありませんか。
- ・ヤコブは、キリスト信じた人に伴う「行い」を述べました。信仰と行い、それは一つにつながるものです。

**2:26** たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。

## ま と め

主 題：「何かが起こるのです」

## —愛の「行い」—

- ヤコブは生きた信仰の第二例目に、遊女ラハブを挙げました。社会的身分の低い、そして恥ずかしいような仕事を本業とした彼女は、生ける神を畏れた人でした。彼女は命をかけて、2人のスパイを助けるという愛の「行い」をしました。それは今でいう神への奉仕でしょう。
- 全能の神を信じ、大きな勇気をもって行った愛の「行い」は、まるで永遠に朽ちない金、銀、宝石のようです。信仰と行い、その二つは一つであります。体の内にたましいがあるように、この二つは切り放せません。私たちは、信仰と行い、もう一度考えてみようではありませんか。
- 今日のまとめとして、次の聖句を読みましょう。  
2:26 たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。

\* God bless you !